

◆次期習志野市子どもの読書活動推進計画案
各社会教育委員からの御意見の概要とその対応

No.	頁	御意見の概要	計画本文への対応	市の考え方
1	3	1 策定の趣旨 読書の効能を2行で表現しているが、「語彙力」など育てられるものは未だあると思います。 明治大学教授齋藤孝さんも「本は教養文化の象徴」という講演を行っています。ぜひ、習志野の子どもたちに、知識と教養を身につけさせたいという願いや思いを挿入すべきであると考えます。	P.3	策定の趣旨に加えました。
2		育児しながら自分の生育過程を振り返っている保護者へのアプローチの中に、保護者向けのねぎらいの言葉を導入などに組み入れてほしいということです。導入の1冊が保護者向けである・導入の言葉が参加を肯定する言葉であるなどです。すでに行っていると思われますが意見として記載いたします。	P.3	策定の趣旨に加えました。
3	4	2 計画の位置づけ 2行目「第五次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」子供→子ども	P.4	修正いたしました。
4	5	2 国・千葉県の動向 (1)視覚障害等の読書環境の整備の推進に関する法律の制定 7行目「第五次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」子供→子ども	P.5	修正いたしました。
5	6	(3)「教育振興基本計画」の策定 10行目「第五次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」子供→子ども	P.6	修正いたしました。
6	7	本市子どもの読書活動の取組状況と課題等の基本方針や、読書の機会を増やす取組は良いと思います。	-	ありがとうございます。次期計画においても、継続して各施策に取り組んでまいります。
7	14	学校での読書活動の推進をこれまで以上に推進してください。SNSなどでは得られない楽しさが本にはあることを子ども達に勧めてください。	P.14	ご意見のとおり、読書にはSNSでは得られない楽しさがあると考えます。14ページ目の今後の視点に記載しているように、教職員や学校司書等、子どもの近くにいる大人が読書の楽しさを伝えられるよう工夫してまいります。
8	18	基本目標 「全ての子どもが読書の楽しさを知り、生きる力を育む読書環境づくり」を推進してください。	P.18	18ページ目に記載のとおり、基本目標として左記の内容を掲げ、各具体的事業に取り組んでまいります。
9	21	3「大人向け講演会・講座の開催」 「読書のきっかけとなる催しの実施」という施策は、あまり読書について興味が無い市民に向けての施策だと思います。3「大人向け講演会・講座の開催」では、関心のある方の参加になりがちなのではないのでしょうか。広く市民が「参加してみたい！」と思える企画が必要だと思います。そこで、事業に「親子で、または大人も子どもも共に参加し共感できる講座・講演会の開催」などと追加していただきたいと思います。 図書館の講座は、「児童向け」「大人向け」と分けられていますが、気軽に第一歩を踏み出すためには、「大人も子どもと一緒に！」という事業が必要だと思います。	P.21	3「大人向け講演会・講座の開催」について、追記を行いました。
10	26	35「幼稚園、保育所、こども園での読み聞かせ等」の具体的な内容に「施設での絵本の貸し出しや、保育の中で市立図書館を利用…」とあります。読み聞かせは従来より保育の基本として行われていることです。事業として挙げるならば、「等」では済ませずに、きちんと貸し出しや図書館利用の推進を挙げていただきたいと思います。	P.26	修正いたしました。

No.	頁	御意見の概要	計画本文への対応	市の考え方
11	27	38 学校での読書指導の充実 具体的な内容 加筆 → 各校の図書委員会を活発化し、貸し出し機会を増やしていきます。 加筆 → 図書館利用を活性化し、児童・生徒が読書に親しむ環境を整備します。 加筆 → 児童・生徒が手に取りたくなるような、書物の購入に心がけます。	P.27	指導課と内容を調整中です。
12	26	基本施策⑥ 学校での読書活動の推進 指導課管轄の「学校司書」は市の雇用です。市の方針を研修などで周知し、現在問題となっている、放課後子供教室においても貸し出しができる制度を設けたいものです。	P.27	放課後子供教室での図書館の本の貸し出しについては様々な課題がありますが、担当課と協議を行い、実現ができるよう進めてまいります。 なお、41「放課後子供教室での読書活動の充実」の記載内容を修正いたしました。
13	26	36 放課後児童会 → 放課後児童会・放課後子供教室にするとよいと思いました。	P.26,27	各担当課が異なるため、進捗管理のしやすさを考え、従来通り36に「放課後児童会での読書活動の充実」、41に「放課後子供教室での読書活動の充実」と分けることとしております。
14	27	基本施策⑥ 学校での読書活動の推進41「放課後子供教室での読書活動の充実」は、スマホやテレビがない環境、自宅ではできない工作などの取り組みを行う時間では、心から本を欲しています。兄弟姉妹を連れてきてくれた高学年のお子さんも本を欲しています。「動」の時間から「静」の時間に移った時が特に必要だと感じます。「ひま」は、「読書の壁」を超える最高の環境です。折り紙の種類を知りたい、子ども教室で出た話題をすぐに調べたい、といった気持ちがある時、最高のマッチングタイムになると感じます。 子ども達と話していると、本は嫌いではないようです。タイミングが大切と感じました。 実施に向けて大変な準備が必要とお察ししますが、よろしくお願いいたします。7月22日～昨日まで、ほぼ毎日8～17時大久保小学校こども教室で勤務しました感想です。	P.27	41「放課後子供教室での読書活動の充実」の記載内容を修正いたしました。
15		以下には、すでに実施されていると思われますが、案のみ列記いたします。 ・講演会、授業に関連した本の提示 ・授業参観日、玄関にお勧め本を置く ・宿題の視点を変えて、誰かに本を選んで読んであげる宿題。読んであげる対象は、家族以外に心のよりどころがあるお子さんもいますので、家族、兄弟姉妹、祖父母や子ども教室の先生など、読んでさしあげたい人、という意味を含みます。 ・〇〇先生が〇年生のとき読んでいた本の紹介 ・先生のために選んで先生に読んであげる時間 ・本が多すぎて選べないお子さんへは、発達に応じて選びやすい量をワゴンに乗る量で提示して選ばせる ・悲しいとき読む本 勇気を出すとき読む本 休みたいとき読む本 といった紹介	-	ご提案ありがとうございます。各部署に共有し、今後、具体的事業を検討する際の参考にさせていただきます。